

12. 皮膚の疾患

文献

岩元英輔. 鍼通電刺激と経皮的電気刺激が褥瘡の皮膚温に及ぼす影響. *日本褥瘡学会誌* 2013; 15(2): 99-104. 医中誌 Web ID: 2013286901

1. 目的

褥瘡の皮膚温に対する鍼通電刺激と経皮的電気刺激の影響の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法、クロスオーバー) (RCT-envelope-cross over)

3. セッティング

三州会大勝病院、鹿児島、日本

4. 参加者

発生から3週間以上経過した慢性期褥瘡を保有する入院患者 16 例

5. 介入

Arm 1: 安静群 16 例。側臥位のまま、無刺激安静 10 分を保つ。

Arm 2: EA 群 16 例。側臥位のまま、0.2×48mm のステンレス製ディスポーサブル鍼を用いて、創部周囲の正常皮膚部位 (0.5-1.0cm 程度離れた部位) に約 10mm の深さで刺入し、双極性パルス波で 3Hz、10 分間通電。

Arm 3: TENS 群 16 例。側臥位のまま、創部周囲の正常皮膚部位 (1-3cm 程度離れた部位) に単極性パルス波で 3-50Hz、10 分間通電。

6. 主なアウトカム評価項目

サーモグラフィを用いて計測した褥瘡辺縁部と中心部の皮膚温。

7. 主な結果

中心部温度の群間比較より、刺激開始後 8 分 (P=0.029)、9 分 (P=0.014)、終了時 (P=0.016) に、安静群にくらべ EA 群で有意に高かった。辺縁部温度の群間比較より、開始後 2 分から終了時まで安静群にくらべ EA 群で有意に高く (P<0.05)、開始後 9 分 (P=0.028) と終了時 (P=0.032) に安静群にくらべ TENS 群で有意に高かった。

8. 結論

鍼通電刺激と経皮的電気刺激は褥瘡の皮膚温を上昇させた。

9. 鍼灸医学的言及

鍼通電刺激による交感神経活動への影響について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

褥瘡皮膚温に対する鍼通電による影響について評価した、希少な研究である。研究デザインはクロスオーバーであるが、各種刺激の実施間隔が 1 日以上となっており、ウォッシュアウト期間としては不十分ではないか。治療回数も 1 回ずつのため、長期の継続効果が明らかになっていない。今後は研究デザインを見直し、試験期間も延長した追試を行うことで、さらなる成果が示されることを期待したい。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19